

## 令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和8年6月17日（水）15:00～17:03

2. 場 所 神戸市立科学技術高等学校 応接室

3. 内 容 ◎司会進行：協議会委員（池内洋一 様）

教頭：本校教頭より資料の説明と確認を実施。

教頭：本年度より学校評議員会より学校運営協議会へ移行したこと、会議の進行も教諭から委員の方へ移ったことを伝え、本委員の池内様に司会をお願いした。

池内 様：開会宣言、および副会長の指名を行なった。玉垣 様を指名、玉垣 様が承諾された。

(1) 会長：永井千秋 様よりあいさつ

※副会長：玉垣真衣 様の指名

永井会長 様：今までの学校との縁のお話があった。約20年前、本校校長と縁があり依頼を受け開拓したインターンシップ先や求人が今も本校と縁があることを知り、少しは役に立てたと思った。今後も本校のために協力したい、と挨拶があった。

(2) 校長あいさつ

※委員の任命と任命書渡し

森田校長：17年教員として働き、もう一度戻ることができた。なによりも本校のことが大好きであり、この学校のために何かしたいという気持ちは負けない話が合った。さらに、学校運営協議会についての説明と本校のますますの発展のために、忌憚のない意見、活発な議論のお願いがあった。※この後、委員の任命があった。

(3) 委員の皆様より自己紹介

全員、会議に参加、各委員の皆様より自己紹介があった。

永井 千秋	元 公益財団法人 新産業創造研究機構
中植 正剛	武庫川女子大学教育学部教授
池内 洋一	K-SMART コーディネーター 航空機産業担当部長
田村 篤史	渚中学校校長（オブザーバー）
玉垣 真衣	R 8 本校育友会会長
鍋澤 静	R 8 本校育友会副会長
小田 イヅミ	R 8 本校育友会副会長
西川 和良	株式会社ダイセル 主席研究員 本校技術指導員（オブザーバー）
森田 晶司	校長
住谷 講基	教頭

#### (4) 学校からの説明

##### ①学校運営協議会の主な役割（教頭）

教頭：教育長からメッセージ（動画）と学校運営協議会の主な役割について説明があった。

##### ②令和7年度学校評価の報告（教頭）

教頭：令和7年度学校評価の報告があった。（資料参照）

質疑応答後、傍聴希望者の入室を予定していたが今回はなかった。

会長：なかなか入りづらい状況もあるので、ZOOMやTeams等で会議の配信を見る方法を提案された。

##### ③学校運営の基本方針について（校長）※学校マネジメントプランの提示

校長：本年度の学校マネジメントプランの説明があった。（資料参照）説明後、質問、意見があった。その後、基本方針の承認に移り、全員一致で承認された。

###### 【質問】

・情報発信（HP）のアップデートの量が非常に多くスピードも速いが、これはどのように進めているのか。→はい。個々の先生方が自発的に紹介したいものを、どんどんあげています。

###### 【意見1要約】

・AIの進展と少子化により、教育の在り方・求められる能力・学校経営が大きく変化している。特に普通科高校は少子化や私立無償化の影響で厳しい状況にあり、教育内容の改革や地域連携が求められている。一方で、科学技術系高校は社会の変化と相性が良く、追い風を受けている。早くから探究学習・課題解決型学習に取り組み、地域や企業との連携体制が整い、多様な専門性を持つ教員が支えている → これらが他校のモデルとなる強みになっている。

しかし、その強みが十分に外部に伝わっていない。教員の専門性や経歴、どんな大人が関わっているか、生徒がどんな探究をし、どんな力を身につけているか これらが見えにくい。発信を強化すれば、学校の魅力はさらに高まる。

・教員の専門性・資格・実務経験の可視化

・生徒の探究内容をAIで要約し、外部向けに紹介

・校内発表を外部にも広げる → 中学生に「ここに行けば未来の力がつく」と伝わり、志願者増にもつながる。

###### 【意見2要約】

・AI時代には「浅く広く」ではなく、土台があり尖った力を持つ未来型人材が求められる。この学校はまさにその育成に適した環境を持っており、発信次第でさらに伸びる可能性が高い。

・学校公開に参加した保護者は、学校の雰囲気や生徒の様子は見られたが、教員の情報がほとんど入ってこないことに不満と物足りなさを感じている。子どもは家で学校の話をしないため、保護者はホームページやSNSに頼るしかないが、そこにも教員の専門性や経歴が十分に載っていない。保護者としては、どんな先生が教えているのか、どんな専門性・経験を持っているのか、どんな思いで授業に関わっているのか、こうした情報をもっと知りたい。

・個人情報の問題はありますが、パスワード付きページなどで保護者限定公開にする方法もあり得るという意見も出た。

・教員の情報が見えることで、保護者の安心感が増す、中学生・小学生への学校の認知度も上がる、学校の魅力がより伝わり、志願者増にもつながる、という期待が語られた。

### 【意見3要約】

・今の高校生は「先生に迷惑をかけたくない」「忙しい先生の手を止めてはいけない」と思い込み、職員室に行くこと自体をためらっている。その結果、困っていても相談せず、問題が大きくなってから助けを求めるケースが多い。保護者から見ると、学校には相談できる先生がたくさんいるのに、子どもがその存在に気づいていない、活用できていないというギャップがある。これは日本の教育文化の影響もあり、子どもたちの「相談スキル」「助けの求め方」が育っていないことが原因。

・学校側も敷居を下げる努力が必要だが、同時に1年生の早い段階で“相談の仕方”を教える教育（探究版ソーシャルスキル）が必要。

・相談しやすい先生を自分で見つける、アポの取り方、声のかけ方などは、将来の職場でも必須のスキル。

・探究活動や卒業研究は、まさに「人に助けを求める練習の場」でもある。

・こうしたスキルを身につけることで、未来型エンジニアとしての主体性・課題解決力が育つ。

#### ④本年度活動計画および状況報告について（教頭）

教頭：資料を参照しながら、①年間行事予定 ②教務関連 ③生徒指導関連 ④進路指導関連 ⑤専門教育「工業」関連（K-SMART事業報告含む）の順で本年度活動計画および状況報告を行なった。

その他に、『CS推進活動』として、学校公開の拡大、資格・検定費の支援制度の確立、地域貢献事業の援助、食堂存続および価格上昇対応についての方針を提案した。

#### ⑤その他（委員の皆さまの意見交換）

全体を通して、本校または教育委員会へ何かご意見等はなかった。

#### (5) オブザーバーより（田村篤史 様・西川和良 様）

田村 様：地域資源を最大限に活かし、学校運営協議会を軸に“本物の学び”を実現している学校であり、校長自身もそのつながりを誇りに感じている、という内容の話があった。

西川 様：企業側が求める力は学歴より“課題を見つけ、説明し、解決する力”であり、それは授業だけでなく、クラブや探究など“主体的に動く場”で育つ。だから学校と企業が協力して、そうした場をもっと作っていききたい、という内容の話があった。

#### (6) 諸連絡・その他（教頭）

教頭：次回の予定を8月17～20日で設定。通常の協議とともに、その日はオープンハイスクールを実施しており、それを見ていただくともに施設、設備見学を提案した。

#### (7) 副会長あいさつ（副会長：玉垣真衣 様）

玉垣 様：子どもが多くの人に支えられて成長してことへの感謝と学校運営協議会の活動の意義や大切さを知ることができた。これからもメンバーとして生徒や他の保護者に広く伝えていきたい、と締めくくられた。